

## あの日の頃 - 20

松沼信行

この目黒星美学園小学校での教員生活も十一年目に入りました。

初めて星美に訪れたときのことは、今でも鮮明に覚えています。私は、栃木県出身で大学も埼玉でしたので、東京に住んだこともなく、この碑文谷という土地自体に全く馴染みがありませんでした。学芸大学駅から電話で聞いた通りに学校を探しましたが、何をどう間違えたのか、気がつくとも、目黒郵便局の目の前。それから、二十分ほど迷いながらも何とか約束の時間までにたどり着くことができました。あわてながらも、周りの景色をよく見ていたのでしょう。都内であるにも関わらず、碑文谷周辺には緑が多く、静かで、学習に適した落ち着いた環境にあるのだなあ、という印象が強く残っています。

また、旧校舎の正面玄関前のマリア様、イエズス様。そして、初めてお話しさせていただいたシスター方。この時は柄にもなく胸がドキドキ、本当に緊張しました。それまで、自分の身のまわりで、宗教というものを強く意識したことはありませんでしたが、何か目黒星美学園の校舎、像、そして、関係されている方々に包まれているような、安心感をもちました。そこで学ぶ子ども達の、朝のお祈りから始まる学校生活にも、目に見えぬ大きな存在でいらっしゃる神様とのごく自然な関わりを感じました。正真言いますと、田舎の公立学校育ちの私にとっては、一年間は、ある意味カルチャーショックの連続だったのですが、それだけに新しい世界を知ったような喜びで毎日が充実していました。

高学年での男子・女子クラス。どちらも当然かわいいのですが、その違いに驚かされたことも度々でした。

五月の聖母祭、数ある宗教行事の中でも、最も厳かに感じました。校庭からサレジオ教会までの聖母行列。たくさんのお花で美しく飾られたマリア像、サレジオ教会聖堂の荘厳さ、そこに響く子ども達の歌う聖歌。厳粛さの中にも、温かさを強く感じました。

三年生から始まる合宿行事。同窓生の方の中でも、小学校生活の思い出といえば、「合宿」とおっしゃる方が非常に多いのではないのでしょうか。いずれの合宿においても、神様がおつくりになった雄大な自然を肌で感じながら、自然だけでなく友達や先生と関わり、触れ合う中で、自然と協力し合えるよう成長していく子ども達の姿を目にすることができました。私自身、専科であったこともあり、スキースクールを除く、すべての合宿に参加させていただきましたが、毎回子ども達以上に楽しみにしていたのかもしれませんが、普段の学校での学習とは、環境も内容も違う合宿活動で、子ども達の新しい一面を知ることが多く、楽しい思い出がたくさんありました。山中へ出発する際の、期待と不安の入り混じったような子ども達の顔、保護者の方の不安で、別れ難いような表情。四年

生海浜学校での、海の生き物に触れ合う子ども達の生き生きとした顔、素直に表れる喜び。五年尾瀬高原学校では、ミズバショウの慎ましやかな美しさや、片品村の人々との触れ合い。A組だけで行く北軽井沢サマースクールでひとまわり大きく成長する男の子達の姿が印象的でした。六年志賀高原学校での登山、山々に囲まれた見晴らしの良い山頂でのミサ。合宿での思い出は、数限りなくあります。大きく伸びやかに成長する、大切な小学校生活でこのような体験ができる星美の子ども達が羨ましく思えたこともあったほどです。

二学期には、運動会、遠足、音楽会。そして、クリスマスの集いでは、イエス様のご誕生を熱演する三年生の名優の面々とそれに見入る子ども連の澄んだ目、表情。今まで、何となく迎えてきたクリスマスについて改めて考えさせられました。

一月には、創立者ドン・ボスコのお祝いの集い。私達教師にとっては、少しでもドン・ボスコに近づき、その教育法を受け継ぎ、実践していこうと決意を新たにする一月三十一日です。

三月で卒業を迎える六年生。サッカークラブを担当することが多かったので、お別れサッカー試合もよい思い出です。張り切りすぎて、ギックリ腰になってしまったこともありました。子ども連の年齢は毎年同じでも、自分は年をとっているということを思い知らされました。

様々な特色ある行事それぞれに同窓生のみなさんと似たような思い出がたくさんあります。でも、それ以上に、目黒星美学園の日常でごく普通に行われている休み時間の風景が、実は最も印象的だったのです。先生方が、いつも子ども達と一緒に遊ぶ。なんでもないことのように思われますが、私の小学生時代、こんなに先生と休み時間を過ごした思い出はありません。私もこの十年あまり、たくさんの時間、たくさんの子ども達と遊んできたつもりですが、決して大変なことではなく、自分自身の喜び、楽しみと感じて子ども達と過ごしてこられたのです。これは、星美学園の先生方全員が同じ思いではないでしょうか。

この十年間で、私もずいぶん外見・内面共に変化してきました。もちろん変わらずにきたこともあるでしょう。目黒星美学園小学校も同じかもしれません。校舎も新しくなり、関わっていく人間も少しずつ変わります。学校生活自体も、内容など変わってきています。同時に、変わらないもの、守っていききたいものもたくさんあるはずです。

卒業生・同窓生のみなさんが、学校へ遊びに来てくださることが度々あります。これは、私立小学校ならではのことで、学校にとって、私達教師にとって、最も嬉しいことのひとつです。これからも、その嬉しさを感じられるような目黒星美学園小学校であるように、また、そこで働き続ける者でいられるよう、私自身努力していきたいと思います。

【同窓会報、第21号・平成14年4月1日発行・から転載】